はこそり

作成年代　昭和13年(1938)
寸　法　9.0×13.6cm

雪の多く降る秋田では、人や荷物の運搬などのために、さまざまな形の橇が作られました。この作品の箱橇は、「秋田風俗　冬の版画集　其一」(6~9ページ)で描かれている箱橇とは違い、大人がタクシーのように使っている様子が描かれています。このように、同じ箱橇でも目的や使う人によって、さまざまな違いがあることがわかります。

ながそり

作成年代　昭和13年(1938)
寸　法　9.0×13.8cm

この作品に描かれている橇は二本橇と呼ばれるものです。この二本橇は荷物を運ぶための雪橇の中でも、最も基本的な形式です。この作品では、橇で米俵を運んでいる様子が描かれています。

馬そり

作成年代　昭和13年(1938)
寸　法　9.0×13.8cm

馬橇とは、馬に引かせる橇の総称です。馬橇は明治初期にロシアから伝わり、木材や人の運搬に使われました。その後、自動車の普及で急速に姿を消していきました。この作品の橇に描かれている「陸中花輪(りくちゅうはなわ)」とは、秋田県鹿角郡(かづのぐん)花輪町にあった陸中花輪駅を指していると思われます。

秋田風俗　橇五題版画集

かずそり

作成年代　昭和13年(1938)
寸　法　9.0×13.8cm

人や荷物の運搬に使われる橇は子どもたちの遊び道具でもありました。この作品の橇はほかの作品の橇とは違い、ハンドルがつき、足が四つに分かれています。橇に乗った子どもたちが雪の上を楽しそうに滑っている様子が描かれています。

秋田風俗　橇五題版画集

ばそり

作成年代　昭和13年(1938)
寸　法　9.0×13.6cm

この作品の橇には屋根がついており、「温泉行」と書かれています。このような大型の馬橇はより多くの人を乗せることができるため、乗合馬車のような役割を果たしていたと考えられます。

秋田風俗　春の版画集　其一

こま

作成年代　昭和15年(1941)
寸　法　14.8×9.0cm

この作品が作成された時代、独楽(こま)は子どもの遊びとして流行していました。この作品に描かれているのは、勝負用の独楽だと考えられます。相手の独楽に衝突させて弾き出したり、それを止めたりして勝負をします。